

## 平成5年度卒業論文題目一覧表

出 井 美 穂	Sprachvarietäten (主に Sondersprache, Mundart, Umgangssprache について)
井 上 和 子	E. T. A. ホフマンの『砂男』における「不気味なもの」について
井 上 貴美子	現代ドイツ語における過去時称の形式について
岩 橋 佳 子	エーゴン・エルヴィン・キッシュの軌跡
岩 村 一 路	シュトルムの過去と現在——『インメンゼー』の場合
上 野 功 一	„Die Verwandlung“ (独文)
梅 田 清 子	フランツ・カフカの『判決』について
大 戸 麻 代	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』——ウェルテルの自殺について——
奥 田 有 紀	ゲーテ『若きヴェルターの悩み』について——なぜ彼は死に至ったのか——
上 村 佳 子	ゲーテの『若きウェルテルの悩み』について
河 合 百合子	„Wir sind Gefangene“ より
川 口 正 将	作品『変身』について
北 島 寛 子	Friedrich von Schiller, „Wallenstein“ ——主人公ヴァレンシュタインに関する多面的考察——
清 永 正 勝	『ゲルトルート』——ヘッセの作品における統一の思想——
小 林 香 織	シラーの『ドン・カルロス』について
後 藤 卓 哉	C. F. Meyer の抒情詩における光と陰
佐 伯 彰 子	グリム童話『白雪姫』について
鈴 木 美 子	ゲーテ『ヘルマンとドロテア』について
高 瀬 麻里子	フリードリッヒ・フォン・シラーの『群盗』について——カールとフランツの悲劇性を中心に——
高 梨 智 江	A. シュニッツラーの『死者は語らず』における愛と死の関係とその意義

- 高橋 篤 史 『ヒュペリオン』から見るヘルダーリンにおける自然
- 竹下 辰 郎 ギュンター・ヴァルラフのルポルタージュ『最底辺』について
- 竹田 亮 子 ヘルマン・ヘッセ『デミアン』における自己の探求について
- 津倉 麻佐子 フランツ・カフカとユダヤ性
- 徳岡 努 Über „Das Urteil“ von Franz Kafka (独文)
- 中澤 則 子 異文化コミュニケーションの重要性
- 中津 政 彦 テオドール・シュトルムの『インメンゼー』について
- 中山 裕 子 エンデはなぜ児童文学という形式を選んだのか  
——『モモ』を手がかりに——
- 野田 幸 彦 Über „Das Urteil“ (独文)
- 濱田 久美子 ドイツ語不変化詞における諸問題について
- 林 宗 利 日独文化比較論——戦後復興の歴史と車産業の新聞広告からの考察——
- 林 有 紀 ゲーテ『ファウスト』第Ⅰ部における「グレートヒェン悲劇」について
- 引地 達 也 シンティ・ロマー——歴史と現在——
- 廣瀬 敦 子 ドイツのなかの外国人
- 福西 健 二 「遍歴」と「懐郷」の詩人ヘルマン・ヘッセ——『青春は美わし』、『旋風』を通じて——
- 藤井 隆 アルトウアー・シュニッツラーの『死者は語らず』について
- 藤岡 朋 子 その構造からみる『マルテの手記』
- 船越 正 弘 フランツ・カフカ『変身』(Die Verwandlung)——実現不可能な願望——
- 前田 恵 実 『ヒュペリオン』について——輪廻・来世観を通してみるヘルダーリンの思想——
- 増井 美 香 テオドール・シュトルム『白馬の騎手』について
- 増田 恵 美 ヘルマン・ヘッセ『デミアン』——ユング心理学から

- の考察をもとに——
- 松 崎 潮 路 シラーの『ヴィルヘルム・テル』の一考察として  
——テル伝説の発展の過程における自由の英雄としての  
テル像の移り変わりについて——
- 松 並 志 保 ゲーテ『ファウスト』第一部におけるメフィストフ  
ェレスについて
- 松 本 要 ヘルマン・ヘッセ『ゲルトルート』について——主人  
公クーンの人生についての考察——
- 圓 田 優 子 ペーター・ローゼッガー 『森の小学校長の手記』（翻  
訳）
- 三 柳 真己子 『いとこの隅窓』を通してみる E. T. A. ホフマン  
村 田 博 美 『グリム童話』の残酷性
- 森 崇 博 シラーの『群盗』について——特にカールとフランツ  
における愛と良心を中心に——
- 森 本 恵 子 ケストナーの人物像と児童文学論——『エミールと探  
偵たち』を中心に——
- 山 雄 麗 子 ヘルマン・ヘッセの『シッダールタ』について——ひ  
とり行く者の愛と孤独——
- 山 口 桂 子 テオドール・シュトルムの『みずうみ』について
- 山 下 優 子 外国語教授法——日本とドイツの外国語教授法比  
較——
- 山 根 万十美 『ヒュペリオン』におけるヘルダーリンの自然観に  
関わる予言者の使命
- 山 本 由佳里 ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』について——西欧  
と東洋の総合の世界——
- 吉 川 誠 『デミアン』研究
- 米 田 桂 子 ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』について——主人公ハ  
ンスの心理描写を中心に
- 和 田 郁 子 E. T. A. ホフマンの『悪魔の霊液』について
- 酒 井 英 昭 ヘルマン・ヘッセ『戦争と平和』に関する考察——全  
ての矛盾が霧散する世界——

- 三代 明日香 昔話のジャンルと語り口について  
武中 謹佳 ドイツ語の Perfekt における sein 支配と haben 支配について  
望月 康治 シラーの『たくらみと恋』について  
中谷 光男 フランツ・カフカ『変身』について——毒虫（変身）が何を表わしているか——

## 関西大学独逸文学会 行事記録

(平成5年1月～12月)

○平成5年7月12日 平成5年度総会及び第77回研究発表会

### 総会議事

- 1) 会長挨拶(代行) .....丸 山 三 友 氏
- 2) 編集報告.....渡 辺 有 而 氏
- 3) 会計報告.....二 宮 ま や 氏

### 研究発表

ボヘミヤン——オスカー・マリーア・グラーフ…植 松 健 郎 氏

○平成5年12月22日 第78回研究発表会

会長挨拶(代行) .....丸 山 三 友 氏

### 研究発表

法陳述の内容表現の多様性について.....黒 沢 宏 和 氏

### 講 演

古高ドイツ語の絶対与格構文.....手 嶋 竹 司 氏  
(前・信州大学教授, 本学非常勤講師)

## 「独逸文学」39号執筆申し込み要領

### 1. 申し込み方法

執筆希望者は、平成6年7月の総会終了時までに文書で編集委員会に申し出ること。

### 2. 原稿について

- i) 日本文の場合、論文は本文・注を合計し、400字詰横書原稿用紙**40枚**、別に500語程度のドイツ文のレジュメを添えること。書評・紹介は同上用紙**20枚**、レジュメは不要。ワープロ打ちの場合は横33字、縦31行で論文は16枚、書評・紹介は8枚とし、A4版の用紙を使用すること。
- ii) ドイツ文の場合、本文・注を合計し、**5000語**（タイプ印書）程度、レジュメは不要。

いずれも**完全原稿**を平成6年9月10日までに、編集委員会に送付。その際、題目と氏名を日本文・ドイツ文で別紙に記したものを添えること。

執筆申し込み、論文要旨、原稿送付とも**締切り日厳守**のこと。なお、執筆申し込みの際、「独逸文学」執筆要領を請求の上、これに従って**完全原稿**を提出のこと。校正段階での訂正は誤植に限り、原稿の加筆・削除・修正は行わないこと。

掲載紙面の都合上、投稿原稿の採用の有無については編集委員会に一任のこと。